



Eine kleine Mozartmusik

クライネ・モーツァルト

— モーツァルト室内管弦楽団定期サロンコンサート —

第76回例会

2009年

〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第5回

〈モーツァルトとハイドン〉その2

〈ハイドンとモーツァルトのホルン三昧〉

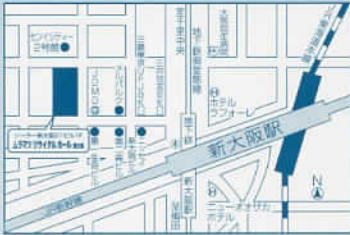
ハイドンやモーツァルトが仕えた宮廷楽団は10数名の団員からなる小規模なオーケストラだったが、時折ホルン奏者が4人在籍することがあった。



大阪文化祭参加

2008年6月28日(土)・午後2時
ムラマツリサイタルホール新大阪

(地下鉄御堂筋線「新大阪」駅4番出口から徒歩7分)



入場料= 一般¥4,500 学生¥2,000
(自由席/ドリンクサービスつき)



フルート 大江 浩志

明石市出身。京都市立芸術大学卒業後渡独し、85年マンハイム音楽大学卒業、同時に国家演奏家試験に最高点で合格。平成8年度《坂井晴忠音楽賞》受賞。89,97,07年大阪にてリサイタル開催。88年よりモーツァルト室内管弦楽団首席奏者を務め、モーツァルトの協奏曲などで数多く協演している。現在、相愛大学、ムラマツフルートレッスンセンター各講師。日本フルート協会理事。



ホルン 垣本 昌芳
垣本 奈緒子
佐藤 明美
小 椋 順二

管弦楽 モーツァルト室内管弦楽団

指揮とお話 門 良 一

🎵🎵🎵 プログラム 🎵🎵🎵

ハイドン：交響曲 第31番 ニ長調 《ホルン信号》

シュターミッツ：フルート協奏曲 ト長調

モーツァルト：ディヴェルティメント ニ長調 K.131

(フルート、オーボエ、ファゴット、4つのホルンと弦楽のための)

主催 ■モーツァルト室内管弦楽団

『ハイドンを忘れてもらっては困ります』

モーツァルトはその生誕250年を世界中が祝った。ベートーヴェンは不動の人気を誇っている。[ウィーン古典派]と呼ばれる3巨匠のうちで筆頭であるべきハイドンは、この二人の後塵を拝しているのが現状である。だが、もしハイドンがいなければ、モーツァルトやベートーヴェンの交響曲も弦楽四重奏曲もこの世に存在しなかっただろう。クラシック音楽の基本スタイルはハイドンによって創造され確立されたのである。また、ハイドンの音楽の持つ健康さとユーモア、そして品格ある秩序感、今の世に最も必要とされるものであろう。モーツァルト室内管弦楽団はハイドン復興をめざし、2009年の没後200年に向けて〈ハイドン・シリーズ〉を行っている。

『ハイドンを忘れてもらっては困ります』— これは、フランス映画「ハンカチのご用意を」の中で、主人公の少年がモーツァルトばかり聴かせる音楽教師に対して抗議することばである (川本三郎著「東京つれづれ草」より引用)。

マネジメント ● 大阪アーティスト協会 (06) 6135-0503

チケット前売 ● 大阪アーティスト協会 050-5510-9645、ムラマツリサイタルホール 06-6398-6988